



鈴木 すすき

靖宏 議員
(新政クラブ)



(仮称)佐野市ハラスメント防止条例
制定について

Q 令和5年10月から、100時間超に渡る時間外勤務をしている職員の長時間労働に至る原因、仕事が終わらないということだが、この長時間になった要因、そしてやらなくてはならない根拠について伺いたい。

A 行政経営部長

令和5年10月から令和6年1月の間で、100時間を超える時間外勤務をしている職員の所属する課は3課ほどありました。

スポーツ推進課においては、8月から職員1名が休職したこと及び佐野市運動公園等3施設の指定管理者の一部事業者が、10月3日付で破産手続の開始決定を受けたことによる新たな業務への対応、関係者や外部機関、議会等への説明や議員からの資料要求に基づく資料作成など、業務量が増加したことが主な要因と考えています。



慶野 けいの

常夫 議員
(政友みらい)



佐野市こども国について

Q 令和5年2月の一般質問において、今の時代に合わせたこども国のリニューアルが必要であり、地域の子育て世代や市職員で構成するプロジェクトチームの設置をし、今まで以上に愛され、来場者が増えるこども国になってほしいと提案したが、その後の本市の取組について伺いたい。

A 市長

令和5年11月に、市職員やこども国運営委員会、企画事業実行委員会、ボランティア団体、佐野日本大学短期大学のご協力をいただき、こども国運営プロジェクト会議を設置しました。会議では来館者の増加をどのようにしていけばいいのか。子どもや家族に愛される施設をどのように設けたらいいか。また、ボランティアの支援について、課題の分析や来館者等へのアンケート調査、企画事業実行委員会との意見交換など、これまで4回の会議を実施したところです。

その他の質問

☆市有施設での学習の場所づくりについて
☆電気自動車等を活用した災害対応力の強化について



小森 こもり

隆一 議員
(公明党議員会)



「こども遊び場の設置」について

Q 子どもの居場所として、新・子どもの屋内遊び場の設置、子ども未来館といったものを考えていただき、子どもたちの多様化に併せた様々な遊びや体験を通して、子ども自身の学びを見つけられる施設、子どもの安心できる居場所の施設の検討をお願いするが、いかがか。

A こども福祉部長

子どもの屋内遊び場は、本市には、平成12年の開館から皆様に親しまれているこども国があり、現在こども国運営プロジェクト会議を設置し、今後の運営の在り方や課題解決に向けた具体的な取組について検討しています。今後、この取組をこども国の運営に反映し、さらなる充実を図り、今まで以上に愛されるこども国を目指すとともに、安全安心に過ごせる子どもの屋内遊び場として引き続き調査研究していきます。

その他の質問

☆地方創生による活性化に向けた取り組みについて
☆支え合い助け合う地域社会の構築について

